

大沼：ユーフラテス河の蛇行が変化して、一方の土地が他方にすばやく取られ利用されるというが、具体的にはどういうことか。

松本：現在でも、河の流路が変わることで南北の境が変更されると、新しく河の南側あるいは北側に入った土地に、当該地の人間が流入してくるということ。

西秋：ユーフラテス河沿いのテル・コサック・シャマリでは、流路が変わっても土地を取られていなかった。河の対岸になってしまった土地に行くために、住民は船を使って渡河している。

辻村：フィンランド隊が見つけた遺跡は、衛星画像から判別できないのか。

松本：解像度が80cmではあるが、見つけることができない。

藤井：80cmなら十分だろう。見えるはずでは？

西秋：データベースを作成しているのか。

松本：イラクにおける遺跡データベースを作成している。場所を確かめて地図上にプロットしている。

下釜：氾濫原にはテルなど認められないということであるが、段丘の上なら新石器にブラスがあり、三千年紀以降の都市遺跡マリもある。ローマ時代だとドゥラ・ユーロボスという都市遺跡も同じ地域にある。ユーフラテス河右岸（西側）台地との境の地域ではそうした遺跡が見える見込みはあるか。

松本：グーグル・アースの衛星画像では確認できない。